

「第15回 Jichi Joy Café」開催結果報告

2022年度テーマ「アフターコロナを見据えた働き方、職場づくり」

今回のテーマ

育児とキャリアの継続

2022年7月22日（金）に「第15回 Jichi Joy Café」を開催しました。

今年度のJJCのテーマは「アフターコロナを見据えた働き方、職場づくり」です。

第15回のJJCでは「育児とキャリアの継続」をテーマとして、産婦人科医師の篠原美樹先生に「若手～中堅のキャリア形成について」お話しして頂きました。篠原美樹先生は、自治医科大学附属病院で初期研修後、産婦人科へ入局され、現在、医師10年目です。産婦人科入局後に出産され、1年間の育児休暇の後に職場復帰し、現在は30時間育児短時間勤務制度を取得し勤務されています。育児と仕事の両立をしながら、産婦人科専門医も取得され目標をもって日々過ごされていると感じました。また、産婦人科医局で取り組まれている働き方の改善についてご紹介頂き、他の診療科にも参考となる点が多かったと思います。

今回の参加者は臨床の先生方が多く、特に男性医師の参加がこれまでで最も多い回となりました。後半のディスカッションでは働き方の多様性について男性からの意見も聞くことができ、大変有意義な時間となりました。これからも、JJCでは男女問わず子育てや働き方の多様性を共有し、キャリア支援センターの活動に活かしていきたいと考えております。

【 開催内容 】


① 開会あいさつ センター長 小宮根 真弓先生

② 医師・研究者キャリア支援センターからの案内・紹介 循環器内科学/講師 小形幸代先生

医師・キャリア支援センター
育児・キャリア支援をおこなっています

アドバイザー
循環器内科 小形幸代

これから子育てを始める方、子育て中の方へ



- ▶ 育児休業・休暇
- ▶ 育児短時間勤務制度（男女）、育児時間（特別休暇）
- ▶ 学内保育施設 保育ルームあいらす
- ▶ 育児休暇取得後の復職相談、当院での研修相談、短時間勤務の相談、保育所入所の相談等を行っている。

育児短時間勤務制度（男女）、育児時間（特別休暇）

育児短時間勤務制度（週30時間勤務） 国で定められた制度

- ▶ 子の3歳誕生日前日まで、所定勤務時間の始め又は終わりにおいて、1日を通じて30分単位で2時間まで。
- ▶ 所属長が特に必要があると認めた場合は、小学校3年修了まで取得が可能（医師、歯科医師のみ）

育児短時間勤務制度（週20時間勤務 医師・歯科医師） 自治医大独自の制度

- ▶ 1週間の勤務時間が20時間となるよう、1日8時間または4時間の勤務を組み合わせる。
- ▶ 子の小学就学前まで（所属長が特に必要があると認めた場合は、小学校3年修了まで）


育児時間（特別休暇） 国で定められた制度

- ▶ 女性のみ取得可能。子の1歳誕生日前日まで。1日2回、1回につき30分。

育児短時間勤務制度の利用者数

年次	女					男					計	
	シニア2	シニア3	臨床助産	病棟助産	助産	病棟講師	学内講師	講師	シニア3	助産		准教授
2012	2	11	0	9	4	0	0	0	0	0	0	26
2013	0	14	0	11	3	0	0	0	1	0	0	29
2014	0	16	0	10	6	0	0	0	1	0	0	33
2015	0	0	20	15	8	0	0	1	0	1	1	46
2016	1	13	1	27	3	0	0	1	0	0	0	46
2017	1	12	3	29	2	0	0	0	0	0	0	47
2018	0	0	18	21	2	0	0	1	0	0	0	42
2019	0	14	9	21	3	0	1	1	0	0	1	50
2020	0	0	13	10	1	1	1	2	0	0	0	28

学内保育施設 保育ルームあいらす




保育ルームあいらす

- ▶ 一時託児 6名、病児保育 4名、準夜間保育 6名（夜間保育を含む）、夜間保育 6名
- ▶ 自治医科大学教職員（含む大学院生）のお子様（満3か月～12歳）
 - 一時託児：月～金 午前8時～午後6時まで（延長保育は午後8時まで）
 - 病児保育：月～金 午前8時～午後6時まで
 - 準夜間保育：月～金 午後3時～午後9時
 - 夜間保育：月～金 午後2時～翌日午前10時まで（ただし、宿泊以外の場合は、午後3時から）

わかかさ保育園（栃木県下野市 キャンパス近接）


- ▶ 学内に近接して設置されている私立の認可保育園。
- ▶ 入園申し込みは下野市への申請が必要となる。



保育ルーム、病児保育利用者

年次	ルーム保育	病児保育	夜間保育	会員宅保育	送迎のみ	合計
2012	944	307	62	786	190	2,289
2013	1089	278	114	848	258	2,587
2014	1409	327	239	495	411	2,881
2015	2019	404	272	413	718	3,826
2016	1044	317	126	88	681	2,256
2017	755	263	134	88	565	1,805
2018	624	289	122	4	643	1,882
2019	402	206	132	0	467	1,207
2020	352	139	43	0	0	534

子育て中、これから子育てを始める医師・研究者のための相談・支援



- ▶ 育児休暇取得後の復職相談
- ▶ 研修相談
- ▶ 短時間勤務相談
- ▶ 保育所入所相談
- ▶ 所管部署と調整を図りつつ、支援活動を行います。適切なアドバイザーが相談を受けています。

③ 講演テーマ：「若手～中堅のキャリア形成について」 産婦人科 篠原 美樹 先生

<一部抜粋>

第15回 Jichi Joy Cafe

育児とキャリアの継続

“若手～中堅の医師のキャリア形成について”

自治医科大学産婦人科
篠原美樹

自己紹介

医師10年目
神奈川県出身

平成25年3月 昭和大学医学部卒業
平成25年4月～平成 27年3月 自治医科大学附属病院 初期研修
平成27年4月 自治医科大学産婦人科入局

夫：医師10年目
自治医大卒業
消化器外科医
現在は茨城県の病院へ派遣中のため単身赴任

子：3歳の女の子
今年春から幼稚園入園



妊娠・出産から専門医取得まで

医師6年目：妊娠・出産
妊娠中期より派遣から大学勤務へ
産婦人科専門医試験を受験予定であったが、切迫早産のため断念

医師7年目：1年間育児休暇取得
育休中に専門医を取得

育休中の悩み



- まわりはどんどん成長してる
- 知識も手技も抜けているし、復帰後大丈夫だろうか
- 復帰後、家庭と仕事の両立はできるだろうか

今後のキャリア形成

長期的な目標

- ▷専門医(サブスペシャリティ)の取得
 - 産科 **周産期新生児専門医**
超首波専門医
 - 婦人科 **婦人科腫瘍専門医**
内視鏡技術認定医
細胞診専門医
 - 生殖 **生殖医療専門医**
 - 女性医学 **女性医学専門医**
- ▷大学院へ進学、学位の取得

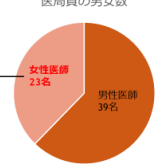
当科の現状

うち10名が子育て医師

勤務内訳

- フルタイム：1名
- 時短(30時間)：5名
- 時短(20時間)：2名(妊娠中1名)
- 産休/育休中：2名

医局員の男女数



子育て医師のうち5名が専攻医
→以前と比較して、子育て中の若手医師が増えている

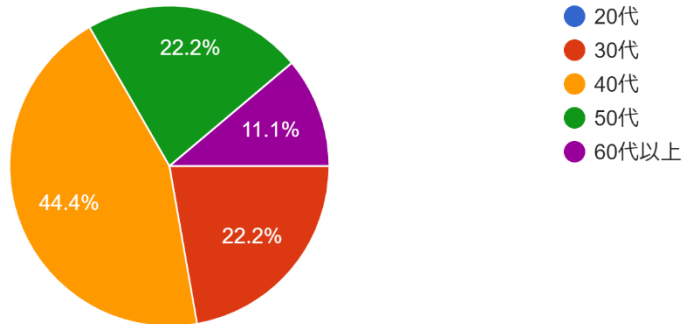
まとめ

- ・個々の環境にあわせて、無理のない範囲で働き続ける
- ・目標をたててモチベーションを維持する
- ・自分のペースでキャリア形成を行う

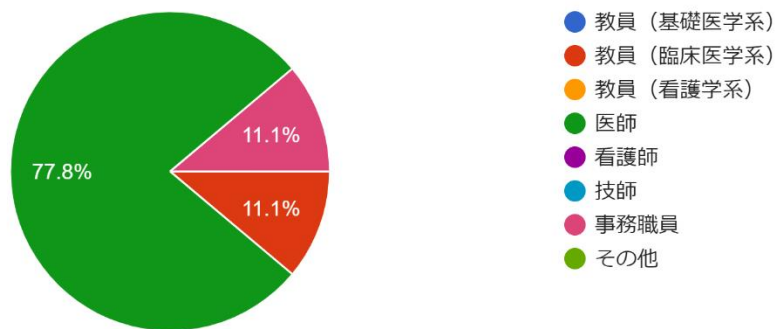
<<原文のとおり記載>>

「第 15 回 Jichi Joy Café」アンケート結果

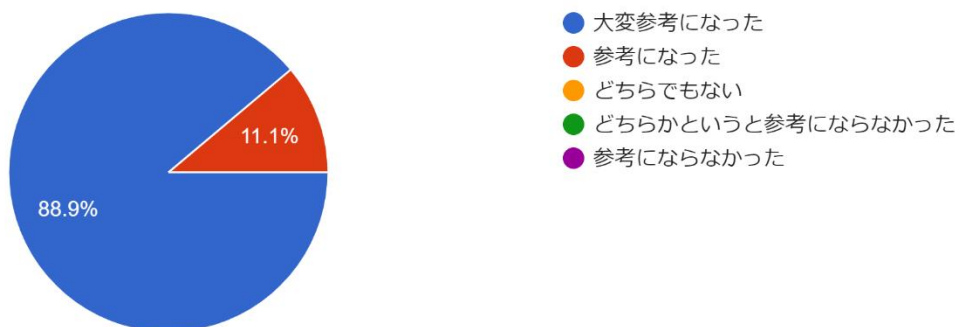
年齢



職種



イベントの内容について



講話の中で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- サポートがあることの重要性、逆にいうと家族の支援が得られない環境は大変だろうと思いました。
- 20時間勤務だと手術に入れないが、30時間勤務だと入れること。時間外業務は交代医師が確保されている環境。さまざまなサポート環境を整えている医局に魅力があるから医局員62名というマンパワーがあると思いました。
- 子育て中のキャリア形成について医局全体の課題として取り組んでいる点が画期的だと思いました。私のいる埼玉県の地域の病院では、時短や育休をとった分だけ他の医師に皺寄せがいく仕組みになっており、今年度は医師数の多い深谷赤十字病院に派遣してもらって、子どもが熱を出した時には他の医師に診療を依頼できる環境にいます。今後秩父地域の派遣先に戻って派遣医師の中では後輩を指導する立場になった時、時短や育休を必要とする人がいればサポートしたいと思いますが、子育て中の医師がキャリアを両立するためには、医師の絶対数を増やす事が必要であり、なかなか難しいと思いました。
- 産婦人科の医局では、個人の目標を少なくとも医局長とは共有していることに驚きました。いわゆる「ワンオブ」という状況だと思いますが、大変な中でも専門医の取得やその後の目標を定めておられ、感銘を受けました。
- それぞれの診療科において同じ悩みを抱えていることがよくわかりました
- 産婦人科の時短勤務対応について
- 自分のキャリアの目標をもつということがまず前提にもつことの大切さが印象に残りました。育児中、あるいはこれから育児をするかもしれない若手医師に是非聞かせたいと思いました。

フリーディスカッションで参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- 診療科によってサポート体制が異なる状況が相互に知られていない、情報の非共有状態
- 若手の女医さんが出産や子育てをしながら専門医取得やキャリア形成を頑張ってらっしゃる姿に感服しました。それ以外にも先生方の振り返る話もとても興味深く、いろいろな働き方があるのは組織として必要なんじゃないかと思いました。
- 子育て中の医師がどのように妊娠、出産、育児、仕事をされてきたのかという話を聞くことができ良かったです。
- 他の部署で、育児世代の方々の勤務形態の希望がさまざまであることや分かった。他の部署で医局の方がそれぞれのキャリアの目標および勤務形態の希望などのヒアリングを行って調整されていることはとても素晴らしい取り組みだと思いました。

篠原美樹先生へのメッセージがございましたらお書きください。

- いまのご苦労があとで生きてくると思います。頑張ってください。
- わかりやすい内容と綺麗なスライドで、素晴らしい講演でした。ありがとうございました。
- 子育てをしながら専門医を取得され、第一線で働き続けられていて、敬服致します。子育ては予定通りにいかない事が多く、仕事との両立を挫折しかける事もありますが、目標を立てて実行されている先輩方のお話は、非常に励みになります。貴重なお話をありがとうございました。
- 本日はありがとうございました。子育てをしながら第一線にいることはとても大変だと思います。今後の御活躍を祈念申し上げます。

- 忙しい中発表を快く受けいただきありがとうございました。
- 経験者のお話ほど当事者にとって参考になるものはないと思います。これからも経験者として様々な形で発信して行ってほしいと思います。ありがとうございました。
- きちんと中断せずキャリアを積まれていて素晴らしいです。
- 大変悩んだ時期もありながら、その結果自分の目標をもって、育児や家事に関してもサービスを使いながら、両立されている姿は後輩医師の励みになると思います。ご講演ありがとうございました。